

東久延 議員



一括質問方式

- ①大洲市政
- ②福祉バスの運行
- ③スクールバスの運行

大洲市政について

**問** 二宮市長は、選挙戦において清水市政を継承しながら、様々なまちづくりをチェンジ、コラボレーション、チャレンジ、コミュニケーションの4つのCで、元気な大洲市をチーム大洲でつくり出そうと、市民の皆様と呼びかけておられた。

**答** これからの大洲市政においても、第2次大洲市総合計画の理

念を継承し、各地域にある魅力や個性に磨きをかけ、市民の皆様や企業、団体、行政など、様々な主体が積極的に行動し、お互いを高めながら、さらに魅力ある大洲市、住みやすい大洲市を目指していきます。

若い皆さんが、郷土のすばらしさや歴史・文化に誇りを持ちながら、新たな夢や希望をこの地域で叶えることができ、そして、健やかに安心して暮らしていける、定住していただけるようなまちづくりを基軸として、チーム大洲での取り組みにより、公約に掲げた5つの柱を推進し、人・自然・文化がきらめくまちづくりを目指して大洲市政を進めていきます。

福祉バスの運行について

**問** 現在、長浜地域において、スクールバスを一般の方が利用されているのは、豊茂地区だけである。老人福祉バスの利用については、各公民館の事業で予約をして利用されていると思われる。

**答** 今坊地区での会合において、住民の方より路線バスがなくなつて不便になつたが、何とかならないかと要

望があつた。

そこで、1つの公民館での運行ではなく、何力所かの公民館を取りまとめた形での効率のよい福祉バス運行ができないかと考えているが、所見をお伺いする。

**答**

老人福祉バスについては、老人クラブなどの団体が、研修のための移動手段として活用されており、市内の高齢者で組織された団体が、月一回を限度に10人以上28人以下で利用することを条件としています。利用者数の制限があるため、複数の公民館を取りまとめ、1つの団体として申請し、利用していただくことは可能です。

スクールバスの運行について

**問** 平成17年に広島市、栃木県の旧今市市、現日光市などで発生した通学路における児童・生徒に対する犯罪事案の発生を受け、通学路の安全確保が大きな課題となっている。

**答** そのため、登下校の安全確保の観点から、へき地支援のスクールバスに通学距離が短い児童・生徒を同乗させる取り組み等がされている。

市内の小・中学校において、スクールバスでの登下校は統廃合による閉校地域で運行されているが、統合を受けた学校や他の学校において、登下校の安全確保はされているのか。

**答**

統合を受けた地区の児童生徒に対しての登下校時の安全対策としては、全通学路の安全点検、防犯教室の開催、地域の児童生徒を守り育てる協議会や、PTAの関係部会による見守り活動を実施するなどの方策を講じています。不審者情報については、警察、教育委員会、各学校間で情報共有を行い、速やかに児童生徒、保護者に情報提供、注意喚起をするとともに安全確保を行っているところと見えます。

